

2024年度 焼津福祉文化共創研究会活動報告

2024年4月1日～2025年3月31日（結成から6年目の活動実績）

活動テーマ：活動5年間の調査研究事業実績から“ご近所福祉”を検証する

★6年目の活動テーマの具体化

今年度の活動テーマ「活動5年間の調査研究事業実績から“ご近所福祉”を検証する」を、下記の本会の活動基調を基に、具体的に取り組んだ。

【焼津福祉文化共創研究会の3つの活動基調】

- (1) さまざまな分野で活動する人たちや福祉職に従事する人たちが、専門分野と世代を超えて交流を図る。
- (2) 会員だけが求心的・閉鎖的に集うのではなく、広く市民に開かれた活動をめざす。
- (3) 既存のコミュニティ・福祉組織の活動から取り残された問題や新しく発生してきた問題を大切にし、つねに市民生活に密着した活動をめざす。

これまで5年間、毎年度活動テーマに基づき、

■1年目（2019年度）

活動テーマ【港地域の“ご近所”を切り拓く 集まる居場所で地域ぐるみのささえあいを検証する】

約5,000世帯をもって構成されている「港地域づくり推進会」（港第14・23自治会）管内において、今まで、地域や個々の人々のつながりの中で、気兼ねなく集まり、会話を交わし、ふれあい交流し、普段の拠り所としている「居場所的機能」を持つ55の既存の各種団体・グループを把握し、「集める居場所から集まる居場所」を課題提起した。

■2年目（2020年度）

活動テーマ【港地域のご近所を切り拓くパート2－協働による地域課題解決を探る】

1年目に取りまとめた結果をもとに、さらに把握に努めるとともに、管内関係団体や住民に機会があるごとに情報を提供し、改めてこうした既存の団体グループの様々な取り組みを地域住民が共有し、積極的に地域参加する機会を掛け、「ご近所福祉 その意識と実態調査」に取り組み、地域で顔の見える“近助”の関係づくりができる「協働による地域づくり」を働きかけた。

■3年目（2021年度）

活動テーマ【港地域をつなぐ・ささえあう“ご近所福祉”を創る】

これまでの2年間にわたり考察・実践してきた活動のプロセスから改めて、港地域の現状を踏まえ地域を家庭化し、世代を超えて誰もが地域づくりに関われるご近所を“地域の居場所”としていく活動に取り組み、子どもを対象に管内関係団体・学校関係者の協力により、「福祉ってなに? 244名の子どもたちにききました調査」に取り組み、尊い子どもたちからの意見を大人社会への提言としてまとめた。

■4年目（2022年度）

活動テーマ【わかる・見える実践活動で“福祉文化としてのご近所福祉”を探る】

前半では、「みんなで創る福祉を学ぶ講座」を開講するとともに、前年度の「子どもたちから、大人社会への提言」を、改めて地域住民と共有する学習の機会を持った。

長引く厳しいコロナ禍の中で、「高齢者」を取り巻く地域環境を危惧し、さらに具体的な滑動テーマを「地域共生社会をめざす仕組み検証事業 高齢者とともに、地域共生社会を拓く～ホ

ツとする地域づくりは誰が担うか～」を掲げて、「ホッとする安心した地域づくりその意識と実態調査」に取り組み、管内の315名の高齢者から尊い意見をいただき、地域社会に向けて、「ホッとする地域づくり」を問題提起した。中学校区を対象に取り組んでいる本会と、県域を対象に活動している「静岡福祉文化を考える会」と協働で「地域共生社会調査研究部会」を設置し、地域共生社会をめざす仕組みを検証した。

■ 5年目（2023年度）

活動テーマ【港地域のニーズ把握から“福祉文化としての港地域のご近所を描く”】

これまでの5年間を振り返るとともに、「地域ぐるみの居場所の検証」、「ご近所の支え合いの検証」、「子どもを取り巻く地域を検証」、「高齢者を取り巻く地域の検証」「中学生のご近所その意識と実態検証」等、「地域を知る」、「地域の現状の把握と課題発見」に取り組んできた。

5年目は、これまで、地域社会では、中学生の地域参加を大いに期待しながらも、地域コミュニティの希薄化、家庭・家族機能やご近所福祉(支え合い)の多様化とともに、その基盤が不透明化で危惧され、加えて、厳しいコロナ禍下にあって、一方では、制度や公助による意図的な支援が当たり前な社会環境にある中で、住民主体の地域の支え合いや、若者との日常的な交流環境には至っていない。地域社会に明るい兆しが見えてきた時期に、これから地域づくりに向けて、地域社会に関心を抱き、近い将来の地域の担い手を期待し、管内の中学生対象に、身近な地域に対する意識と実態を把握し、世代間交流できる地域社会づくりに、若者の地域参加の必要性を呼びかけ、地域社会の活性化と、地域づくりの再構築を検証する目的で、「私にとって“ご近所”とは、中学生の意識と実態調査」を実施し、協働団体の「静岡福祉文化を考える会」とともに、「共創社会実現研究会」を設置（10回開催）するとともに、管内2つの中学校（小川中学校・港中学校）をはじめ、小川地区及び港地区のコミュニティ推進組織、志縁団体の焼津市民生委員児童委員協議会、さわやかクラブ連合会やいづ等の協力のもと、中学生からの意見をまとめ、若者が参画できる地域づくりに向けた大人社会への提言として、地域社会に働きかけた。

以上、5年間の地域活動に取り組んできた。

このように、6年目の今年度（2024年度）の活動は、1年目「地域ぐるみの居場所の検証」、2年目「ご近所の支え合いの検証」、3年目「子どもを取り巻く地域を検証」、4年目「高齢者を取り巻く地域の検証」5年目「中学生のご近所その意識と実態検証」と、これまで5年間取り組んできた活動について、会員相互に意見を出し合い、改めて、地域づくりを再確認し、ホッとする「ご近所福祉」について研究協議を重ねてきた。

併せて、協働団体：「静岡福祉文化を考える会」が、2024年度赤い羽根助成事業「若者発ご近所福祉かるたによるご近所福祉検証事業」により取り組んだ事業に本会は主活動として参画するとともに、地域福祉教育教材としての「若者発ご近所福祉かるた」を活用して、実践的体験的学びの場を開拓しながら、「かるた増刷配布提供」（100セット・52箇所配布）「かるた活用10年間の状況調査の実施」「かるた活用事例集の企画・編集・配布」「共創社会実現研究会」（全8回開催）等に関わり、更なるご近所福祉の推進に努めた。

1. 本会活動の2024年度着眼項目

- (1) 会員はじめ、地域活動に関心のある地域住民に呼びかけて、「語れる環境」、「地域総合型学習」の醸成に努める。
- (2) この5年間の「ご近所福祉の地域課題」を整理する。
- (3) 「協働による地域づくり」を基に、「地縁組織と志縁組織」を探る。
- (4) 「教育とコミュニティと福祉」「理論と実践」「専門性と市民性」の『融合』を議論する。
- (5) 地域福祉教育教材としての「若者発ご近所福祉かるた」活用方法開拓するとともに、活用事例集の作成を具体化する。

2. 会議等

- (1) 定例研修会…12回開催（原則毎月第2土曜日 18:30～21:00）

(2) 協働団体：静岡福祉文化を考える会と「共創社会実現研究会（調査部会）」…8回開催

回	開催日時・会場	研究協議内容(概要)
第1回	4月13日(土)18:30 北川原公会堂	研究会の位置づけと方向性、地域の現状認識① 調査実施協議(調査実施要項・調査個票) 調査配布計画
第2回	5月11日(土)18:30 北川原公会堂	地域の現状認識② 調査票配布状況 調査票回答状況①
第3回	5月25日(土)10:00 静岡市清水区	地域の現状認識③ 調査票回答状況②
第4回	6月8日(土)18:30 北川原公会堂	調査票回収状況③ 調査票集計作業① 協働の課題
第5回	7月13日(土)18:30 北川原公会堂	調査票集計作業② 調査票考察作業① 活用事例集編集①
第6回	9月14日(土)18:30 北川原公会堂	活用事例集編集②
第7回	11月9日(土)18:30 北川原公会堂	活用事例集発行及び配布先検討
第8回	12月14日(土)18:30 北川原公会堂	事業総括

- (3) 地縁団体「小川地区コミュニティ推進会」「港地域づくり推進会」へ本会活動を情報提供
- (4) 管内自治会関係者へ本会活動を情報提供
- (5) さわやかクラブ・焼津市民生委員児童委員協議会へ本会活動を情報提供
- (6) 管内の2つの中学校(小川中学校・港中学校)及び社会教育機関(県立焼津青少年の家)へ本会活動を情報提供

3. 活動内容

(1) これまで、5年間取り組んできた「調査研究事業」を、定例研究会で継続検証活動

- ① 「地域ぐるみの居場所」検証事業 (1年目調査研究事業)
- ② 「ご近所福祉 その意識と実態調査」検証事業 (2年目調査研究事業)
- ③ 「“福祉”ってなに? 244名の子どもたちに聞きました調査」検証事業 (3年目調査研究事業)
- ④ 「ホッとする安心した地域づくりその意識と実態調査」検証事業 (4年目調査研究事業)
- ⑤ 「私にとってご近所とは 中学生の意識と実態調査」検証事業 (5年目調査研究事業)

(2) 「若者発 ご近所福祉かるた」の現場実践事例に学ぶ

これまで、各方面に配布提供した「若者発 ご近所福祉かるた」の活用状況の調査を通じて、「近助」の在り方について、学校教育領域をはじめ、ミユニティ組織、志縁組織、施設等において実践している内容を学んだ。

(3) 会員レポート研修の取り組み

毎月の定例研究会において、それぞれ会員が、身近な地域における出来事や、日ごろ考えていること、気になっていること、思っていることを「テーマ」に語り合い、県内の実践事例に学びながら、これからのが(ご近所)のあり方について意見交換の場をもった。

来年度の「会員レポート研修」プログラムとして、「ご近所での困りごとをご近所で、どのように支援し合えるか」を検討することになった。

(4) 「若者発 ご近所福祉かるた」活用状況調査の実施支援

協働団体:静岡福祉文化を考える会が、平成27年度・令和4年度・令和6年度に企画制作した「若者発 ご近所福祉かるた」合計300セットをこれまで提供した県内の福祉施設・グル

ープ・団体、地域実践者に「活用状況」を調査した活動を支援した。

(5) 「若者発 ご近所福祉かるた」活用事例集の作成支援

協働団体:静岡福祉文化を考える会が、企画制作した「若者発 ご近所福祉かるた」をこれまで提供した県内の福祉施設・グループ・団体、地域実践者に「活用状況」を問い合わせをした結果等をもとに、各領域における活用事例集を作成し、各方面に配布提供した活動を支援した。まとめて広く、啓発に努めた。

(6) 「若者発 ご近所福祉かるた」増刷配布提供を支援した

協働団体:静岡福祉文化を考える会が、令和6年度赤い羽根助成事業により、平成27年度に企画制作した「若者発 ご近所福祉かるた」を100セット増刷し、県内各方面に配布提供する活動を支援した。(52箇所に配布提供した。)

(7) 「若者発 ご近所福祉かるた」の活用方法を考える

平成27年度及び令和3年度と今年度の10年間、協働団体:静岡福祉文化を考える会が企画・制作(合計300セット)した「若者発 ご近所福祉かるた」の活用方法を定例会等を中心に研究協議をした。

(8) 関係機関・団体との連携

- ① 静岡県社会福祉協議会、焼津市社会福祉協議会及び近隣社協への情報提供・連携
- ② 「地方発 福祉文化の創造」の実践を基に、静岡福祉文化を考える会及び日本福祉文化学会との情報共有と活動の協働
 - 各種事業の取り組みについての情報提供
 - 各種事業の実践活動の共有
- ③ 関係機関・団体、大学・専門学校及び管内学校教育(小・中各2校)・社会教育領域への情報提供
- ④ 烧津市V連絡協議会との連携
 - 定例総会出席
 - 定期V連代表者会出席と情報提供(通信配布)、問題提起による活動活性化の提言
- ⑤ ふじのくに未来財団への情報提供
- ⑥ 静岡県コミュニティづくり推進協議会(コミュニティ活動団体として)への情報提供
- ⑦ 管内福祉施設連絡会との連携と情報共有(通信配布)
- ⑧ 港地域づくり推進会、小川地区コミュニティ推進会(事務局: 小川地域交流センター)及び管内自治会(町内会)への情報提供
 - 通信送信
 - 各種活動状況報告
- ⑨ 烧津市民生委員児童委員協議会への情報提供
- ⑩ 公益財団法人あしたの日本を創る協会への情報提供
- ⑪ 公益財団法人さわやか福祉財団への情報提供
- ⑫ その他、必要に応じて関係機関・団体に情報提供

(9) 広報啓発活動

- ① 「日本福祉文化学会」HPを主体に、「静岡福祉文化を考える会」ブログとのリンクで、広く活動を通じた問題提起を発信。
- ② 烧津福祉文化共創研究会通信の発行(原則、毎月1回発行、A4版、両面印刷)

P C メール送信先	配布及び郵送
1. 静岡県行政各課（地域福祉課/静岡県民生委員児童委員関連部署地域振興課） 2. 焼津市行政各課（地域福祉課・市民協働課・広報課・地域包括ケア推進課） 3. 静岡県・焼津市各社会福祉協議会 4. 静岡県コミュニティづくり推進協議会 5. 公益財団法人さわやか福祉財団 6. 公益財団法人愛恵福祉支援財団 7. 公益財団法人あしたの日本を創る協会 8. ふじのくに未来財団 9. 静岡福祉文化を考える会役員 10. 管内福祉施設連絡会（13介護事業所） 11. 管内外活動グループ・個人（10） 12. 管内中学校（2） 13. マスコミ各社 14. 県内NPO法人（2） 15. 港地域づくり推進会（港第14自治会長）	1. 会員（6） 2. 焼津市ボランティア連絡協議会加盟団体（17） 3. 静岡福祉文化を考える会役員（20） 4. 港地域づくり推進会 5. 港第14自治会（17） 6. 港第23自治会（19） 7. 小川小学校 8. 小川中学校 9. 港小学校 10. 港中学校 11. 県立焼津青少年の家 12. 小川地区コミュニティ推進会 13. さわやかクラブ連合会やいづ 14. 小川公民館 15. 港公民館

計 90枚

4. 活動を振り返る（成果と課題）

(1) 今年度、6年目の活動に取り組んだ。

結成当初14名でスタートしたが、それぞれの事情により8名が退会し、6名の活動となった。「集める活動ではなく集まる活動」を基本に活動する市民グループとしての位置づけをしているため、小さな活動（課題を掘り起こす）をいかに大きな活動（地域社会に課題提起）に展開できるかを工夫をしながら、これから地域づくりに向けた「協働活動」のあり方を検証し、地域社会に発信してきた。

(2) 6名の会員構成となったため、各種助成事業を申請した活動は計画しないで、昨年度まで5年間取り組んできた尊い活動（調査研究活動）を、今年度は振り返ることにした。

* 1年目➡ 集める居場所ではなく、集まる居場所でありたいと議論しながら、地域社会において、今につないでいる「地域ぐるみの居場所検証」に取り組んだ。

* 2年目➡ 「ご近所福祉の検証」をした。

* 3年目➡ にわかに、社会全体に子どもを取り巻く地域課題が浮き彫りになり、地域の子どもを地域で育むことが出来ているかを問う目的で、子どもたちから、地域の課題を発信する取り組みとして「子どもから地域社会への提言」をテーマに子ども対象調査に取り組んだ。学校教育（小学校）との連携、地域社会にある子供会組織への働き等に努めた。本会の活動を通じて、これまで、「教育と福祉の融合」について議論し、学校教育と社会教育との連携の在り方も課題として取り上げ、ささやかではあるが、管内の学校及び社会教育施設への情報提供に努めてきた。

* 4年目➡ 「高齢者」の地域社会における見え隠れが課題として挙げられ、地域からの支え合いで、積極的に社会参加できる地域環境を問う取り組みとして「コミュニティ組織の再構築の検証」に取り組んだ。5年目の今年度は、これまで、話題にしてこなかった「中学生」の地域社会における存在をこれからの地域づくりにいかに活かせるかを検証する目的で「地域づくりへの新たな提言検証」に取り組み、更に、学校教育領域（中学校）との連携と、コミュニティ組織（2つの中学校区を取り巻く地縁組織）への協力を働きかけて、引き続き、厳しいコロナ禍下、猛暑の中ではあったが、本会の活動を休止することなくここに、「プロセスを重視した福祉文化実践活動」が展開できた。

* 5年目➡ これまで、地域社会では、中学生の地域参加を期待しながらも、中学生の状況を把握するまでに至らなかった。

「教育と福祉の融合」は、2021年度に、小学生(小学4年生～6年生)対象に「福祉ってなに? 244名の子どもたちに聞きました調査事業」では、管内2つの小学校(小川小学校・港小学校)の協力と子ども会世話人の皆さんとの協力により、対象児童数約280名のうち244名の児童からの回答(回答率約87.1%)をいただいた。そこで、中学生対象に実施した意識と実態調査事業に取り組んだ。対象生徒約583名のうち、476名の生徒から、尊い回答(回答率約81.1%)をいただいた。特に、中学生対象調査事業については、相当困難を予測していた。学校側との事前協議を重ねる中で、あくまでも中学生の主体的な調査協力をお願いした。その結果、本会が、掲げた回収目標を、大幅に上回った回答実績となった。こうした調査事業は、決して、当初から、本会独自で成し遂げられるものではなく、全面的な管内の小・中学校のご理解ご支援とともに、コミュニティ組織(地縁組織+志縁組織)のご理解により、これまでの調査事業の成果を生み出している。現在、管内では、「コミュニティスクール事業」に取り組まれている中で、この調査の考察は、今後、地域社会のあるべき方向性を示すことを期待する。

(3) 一般的に、地域活動に求められる「3要素」として、次のことが求められる。

①「もの」・・・常設的な活動拠点はないが、管内の地域資源として、地縁団体(町内会)の理解をいただき、活動出来る基盤は、なんとかこの6年間維持された。

②「ひと」・・・集めるグループではなく、集まるグループ、地域を知り、地域の課題を学習しあう、性差や世代を超えた意見交換ができる、専門性と市民性を融合しながら、市民としての学び合いができる環境に努めなければならない。
常に、人脈・コーディネート機能を有した運営を心掛けたい。

③「財源」・・・今年度は、会費制維持しながら、自己財源の範囲と、協働団体:静岡福祉文化を考える会の赤い羽根助成事業の支援活動で賄うことが出来た。

結成当初から振り返ってみると、

* 1年目➡ ①赤い羽根助成事業「地域ぐるみの居場所検証事業」(56,000円)
②静岡県コミュニティづくり推進協議会活動集団助成事業
「地域ぐるみの居場所調査報告書作成事業」
(2019-2020の2年間で100,000円)

* 2年目➡ ①赤い羽根助成事業「ご近所福祉検証事業」(100,000円)

* 3年目➡ ①赤い羽根助成事業「小学生対象:福祉意識検証事業」(80,000円)

* 4年目➡ ①公益財団法人さわやか福祉財団/地域助け合い基金助成事業」(200,000円)
②赤い羽根助成事業「みんなで福祉を創る講座事業」(48,000円)

* 5年目➡ ①赤い羽根助成事業「中学生対象:ご近所検証事業」(80,000円)

(参考)

年度	赤い羽根助成事業	静岡県コミュニティ活動集団助成	さわやか福祉財団	計
令和元年度	56,000円	70,000円		126,000円
令和2年度	100,000円	30,000円		130,000円
令和3年度	80,000円			80,000円
令和4年度	48,000円		200,000円	248,000円
令和5年度	80,000円			80,000円
令和6年度				
計	364,000円	100,000円	200,000円	664,000円

(4) 「協働」による地域づくりについて、今後に向けて、更に積極的に「地縁組織」に働きかけてい

き、加えて、関連福祉団体が、「志縁組織」の取り組みを認識していきたい。

- (5) 本会の日頃の活動を常に広く、県内外や管内外に、積極的に情報発信する努力した。
- ①協働団体:静岡福祉文化を考える会を通じて、日本福祉文化学会等とブログに活動状況をアップし、「地方発 福祉文化の創造」を発信してきた。
- ②本会広報誌「焼津福祉文化共創研究会通信」を、結成以来、現在まで通算 67 号発行し、毎月 90 部発行し配布してきた。
- 引き続き、経費内で、本会の活動の「見える化」、「わかる化」の努力をしていきたい。
- (6) 協働団体:静岡福祉文化を考える会との連携のもと、地域福祉教育教材「若者発 ご近所福祉かるた」の活用を呼びかけ、「ご近所福祉」を身近に学ぶ環境づくりに努めたい。
- (7) 「語れる環境なくして、問題解決の一歩はない」と、定例研究会に組み入れた「会員レポート」は、3 年間継続出来た。「会員を知る」ことから、引き続き継続していきたい。
「身近な地域での困りごと」の支援のあり方の議論を更に深めていきたい。
- (8) これまでの本会の 6 年の活動から、多少見えてきたのが「小地域活動」のあり方、とりわけ、「ご近所福祉」をどのように捉えていくか、「現代版 ご近所福祉の復活」を試みる課題に取り組んでいきたい。さらに、これまでの調査活動から考察を常に活かしていく課題がある。